

梅雨の晴れ間の日差し：  
屋敷林がつくる多彩な緑と一体になった川沿いの風景



撮影：2013年6月（千葉県・香取市佐原）

◆水郷のまち佐原をゆく

佐原市街を流れる小野川は、江戸時代から水運で栄えた“商人の町”の面影を残します。現在、佐原駅近くの中心市街地がさびれているのに比べ、小野川沿いの“伝建地区”は江戸情緒が残されていて「伊能忠敬を育んだまち」として人気を集めます。わが国最初の日本地図である「伊能図」(1821)を、50歳を過ぎてから全国の海岸線を歩き通した執念には驚かされます。55歳で北海道南岸の測量を完了して以後、計10回に及ぶ測量を71歳まで行いました。

岡村幸二（JRRN会員）